

## 海の冒険シリーズ③ 若狭湾海湖の自然学校 同窓会

### 1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
		41	参加人数39（福井県16名・大阪府11名・滋賀7名・京都3名・兵庫2名 京都府7名・奈良県8名・愛知県5名・東京都2名）

### 2. 事業内容（概要）

#### ◆ねらい

- ・平成27年度教育事業の一つ「若狭湾 海湖の自然学校」の参加者が再び一堂に会し、ともに活動を通して当時の学びを再確認するとともに、さらなる交流を深める。
- ・保護者会を開催し、事業前後の子どもたちの様子を交流し合うとともに、今後の事業展開の参考とする。
- ・ボランティアリーダーと共に事業を企画・運営することにより実践力を高め、後の「若狭パーティー」での実践へとつなげる。

#### ◆期日・期間

2016年2月13日（土）～ 2016年2月14日（日）1泊2日

#### ◆後援・協力団体

なし

#### ◆参加者分析

- ・家庭の事情でやむなく参加できなかった1名を除き、自然学校参加者15名が全員集まることができた。事前からこの事業を楽しみにしていた参加者も多く、参加者同士のつながりが深いことが伺える。

#### ◆企画のポイント

月 日	内 容	宿泊場所
2月13日（土）	始まりのつどい 室内レク・自然学校バスツアー 思い出スライド ナイトウォークラリー・保護者会	国立若狭湾 青少年自然の家
2月14日（日）	写真立て作り 終わりのつどい	

※自然学校の同窓会ということで、まずは参加者同士の関係を再び円滑にすることを第一とした。そのため、最初の活動は参加者、ボラと保護者、兄弟姉妹とを分けて活動を実施した。夜の活動は保護者からより深い情報収集ができるように、参加者と兄弟姉妹全員がウォークラリーに参加という形で実施した。2日目の写真立て作りは、家族で会話を楽しみながら活動できるように、座席配置等を考慮して実施した。

#### ◆運営のポイント

- ・1日目の室内レクリエーションとナイトウォークラリーは、ボランティアリーダーが主体となって企画し、リーダー性やリーダーの実践力の向上をねらいとした。
- ・保護者との情報交換会において、様々な意見交流ができるよう事前にバスツアーで活動場所を見学し、イメージを持つために写真スライドの上映も行った。また、事前アンケートで収

集した情報を整理した資料を作成し配布した。

- ・家族間での交流の機会を生み出すために、ゆとりある活動時間設定にした。

#### ◆安全管理のポイント

- ・参加前からけがをしている児童、生徒もいたことや、参加者全体の年齢層が幅広かったため、事前にけがをしている児童生徒への配慮事項をボランティアに周知した。また、けがの防止のためクラフト活動前に入念に全体指導を行った。

### 3. アンケート結果

#### (1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	86%	8%	6%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	75%	22%	3%	0%
この事業の運営はどうでしたか	69%	25%	3%	3%
	4 満足	3 やや満足	2 やや不満	1 不満

#### (2) 参加者の声

##### (保護者より)

- ・参加した子どももいい経験になった。
- ・名物行事として末永く続いていただきたいと思います。
- ・夏の事業の後に同窓会があり、子どもたち自身がまた「絆」を深め会えたようで良かったです。今後も、このつながりが続けて行く形ができて喜んでいきます。
- ・県外のお友達ができ、再会してまた楽しい思い出を作ることができ感謝しています。親同士の交流でもいろいろなお話ができて刺激的でもあり楽しかったです。
- ・保護者会は、もう少したっぷり意見交換したかったです。

##### (子どもより)

- ・写真立て作りが、楽しかった。・友達をいっぱい作れてよかった。
- ・気づいたらいっぱい友だちができていた。
- ・自分のためになった。

### 4. 成果と課題

#### (1) 成果

- ・アンケートの結果からも、子どもたちが再会できつながりをさらに深める機会となった。
- ・ボランティアの企画、実施力を育成する機会を設定したことで、自分たちで問題点を考えたり次への方策を考えたりすることができた。
- ・保護者との情報交換会を実施したことで、保護者間のつながりも生まれ、活動に関する意見交流はもとより子育てに関する交流も積極的みられた点はよかった。
- ・アンケートや情報交換会を通して、保護者からの情報収集をすることができ、今後のプログラム開発につなげることができる。

#### (2) 課題

- ・海湖の自然学校の参加者にとっては、仲間との再会など楽しいと感じられる活動が多いが、兄弟姉妹にとっては、交流する時間が短いことや年齢層の幅も広いことから全員が楽しめる内容を企画しにくい所がある。参加人数にもよるが、活動が選択できるようにするなどの工夫が必要である。
- ・本年度は、情報交換会で積極的な意見交流がなされたため、保護者間での交流の時間が十分にとることができなかった。情報交換会終了後、希望者には、保護者間で話ができるような時間、場所を設定できるような日程の調整をしておくことも大切であった。

## 5. 活動の様子

はじまりのつどい



室内レク



自然学校バスツアー



日の入り前の海辺で



夕食



ナイトウォークラリー



保護者との情報交換会



朝のつどい



朝食



写真立て作り②



終わりのつどい



集合写真

